



試練をチャンスに

防大への入校が決まった時、これは息子への試練だと思いました。息子が幼い頃から、何度も周囲に頭を上げてきたことでしょう。思春期の学業不振も凄まじく、長く続けてきた野球でも、チームの中心選手ながら大切な試合に出られなかつたこともありました。私自身の子育てを悔いたことも一度や二度ではありません。おめでとうではなく試練、それは母としての正直な気持ちでした。

入校後、コロナ禍で様々な制約はあったものの、息子は素晴らしい先輩や仲間に恵まれ、良い刺激を頂いているようです。専攻している国際関係学科の講義がとにかく面白いそうで、あれほど勉強嫌いを通した息子が、防大では深夜まで勉学に励む家族も想像のつかない学生に変わりました。現在は韓国空軍士官学校に長期派遣学生として留学中ですが、週末はソウル市内の日本人学校の野球チームに顔を出すなど、うまく息抜きしながら日々の課業や訓練に取り組んでいるようです。是非将来の世界の平和を担う韓国や各国の留学生達と固い友情を育んできてくれたらと思っています。

防衛大学校

神奈川県自衛隊家族会 原 由美

覚悟を持って臨んだ防大生活で息子は何かを掴んだようです。言葉にできない苦労もあったことでしょう。今では防大への入校は、試練ではなくチャンスを頂いたのだと感謝しています。これを大切にし、半年後一回り大きくなつて元気に帰国する日を心待ちにしています。良く学び、良く励み、悔いのない青春を送ることを願っています。



家族会の一員として応援していきます！

幼稚園から高校まで続けた水泳。小学校高学年からはボランティア活動にも参加していた息子。高校の修学旅行中には北海道胆振東部地震に遭遇。その出来事も関係したのでしょうか、安全を守る仕事に就きたいと自衛官になりました。サマースクール等でお世話になっていたご縁もあり、親としては誇らしく思う反面、今までとは全く違う環境が待っています。正直、やつていけるのだろうかと不安に思いました。

そんな息子も教育隊を経て、念願の艦艇勤務となり、日々の職務に励んでいます。時には上手くいかない事もあるのでしょうか、そんな時は周りの方々のご尽力で乗り切っている様です。それも組織がしっかりしているからこそだと感謝しています。親元を離れての生活のため、なかなか詳しい様子がわかりませんが、我が家では家族会での情報交換や自衛隊のホームページ（一部、家族限定での閲覧）を頼りにし

海上自衛隊

神奈川県自衛隊家族会 矢部 正子

ています。特に長期の海外派遣訓練ではどうしても心配も募りますが、家族会の会長さんをはじめ役員の方々の存在が何より心強いです。また、ホームページでは訓練中の日常の様子が伺えます。画面越しにでも息子の姿を確認出来た時は本当に一安心します。迎えた成人式も洋上で艦艇の皆さんにお祝いしてもらい、とても良い記念になりました。ありがとうございました。

これから、新しい配属先でも職務を果たせる様に祈りつつ、私も微力ながら家族会の一員として応援していきます。



これからも応援し続けます！

我が家は、2018年4月に陸上自衛隊に入隊しました。新しい制服に身を包んで入隊式に臨む息子の姿を見て、一日早く立派な社会人、自衛官になれるよう頑張って欲しい、親はどんな時でも応援しているよ、と思った事が、昨日のように思い出されます。あれから4年が経ち、息子も日々の教育、訓練は勿論の事、災害派遣や東京オリンピックの支援等を経験し、一歩ずつですが自衛官としての自覚と責任を持って勤務に励んでいるようで、安堵しているところです。入隊時と比べると、身体つきもひと回り大きくがっしりとして来て、逞しくなりました。

2022年の4月からは、自身が入隊後教育を受けた横須賀の第117教育大隊一般曹候補生前期教育の班長として、3ヶ月間の任務につきました。コロナ禍という事で、入隊式、修了式の際の家族の出席は無く、訓練においても演習場に行けない等の制限があ

陸上自衛隊

神奈川県自衛隊家族会 松井 恵美



ったりと、自身が教育を受けた時とは異なる事も多かったようですが、無事に任務を全うし大隊長褒章を頂く事ができました。これでまた一步成長出来たかと思うと、親としても嬉しいかぎりです。

自衛隊を取り巻く環境は、今後も厳しいものが予想されるし、更なる困難にぶつかる事も多いでしょう。でも自衛官という仕事に誇りと信念を持ち、引き続き頑張れとエールを送ります。これからも息子だけでなく、全ての自衛官の皆様を応援し続けるサポーターでありたいと思います。



海がつないでくれた親子の想い

沖縄生まれの主人は、子どもの頃、港に着いた大きな船を見て、「いつか船長になる！」と夢見ていたそうです。

結局、その夢は叶いませんでしたが、何かについてその話を聞いて育った我が家の息子たちは、自然と海への想いを募らせていました。ところが、長男が海上保安庁の1次試験に合格して大喜びしたのも束の間、長男の制服姿を見ることなく主人が急逝してしまったのです。

それからは長男が父親代わりとなり、次男の進路について相談に乗ってくれていたようです。偶然にも元海上自衛官の同期がいたことから、海上自衛隊の恵まれた福利厚生や職場環境について詳しく教えてもらった長男は、次男に「お前には海自が向いていると思うよ」とアドバイス。

さらに、次男がたまたま参加したあるイベントで話が盛り上がった相手がなんと海上自衛官でした。「1度、艦に乗ってみた

海上自衛隊

神奈川県自衛隊家族会 宮城 恵



い？」と誘っていただいたことから、トントン拍子に話が進み、翌春、次男は海上自衛隊へ。ずっと憧れていた艦艇に乗ることもでき、嬉しく思うと同時に海の厳しさを知り、さらなる研鑽を心に誓ったようです。

自ら海への道を切り拓いた長男と、多くの方の力を借りて海への道を歩みはじめた次男。決して平坦な道ではありませんが、2人がつないでくれた海への想いは、きっと天国に届いていることでしょう。主人も日々たくましく成長する息子たちの姿を誇らしく思い、見守ってくれていること思います。



入隊後20年の今

いやー参った。今頃、筆不精の私に原稿依頼が来るとは…。

私もかつては、事務局長に携わりましたので断るわけにはいきませんでした。

思い起こせば、息子の過去を考えた時に小学校の色紙に「平和」の2文字が書かれていたことを思い出し、それが現在の原点なのかなと思いました。息子の赴任の都度、家内と赴任先を訪れ、檄を飛ばすとともに、それぞれの勤務地での苦労も共有しています。

特に、記憶に残る出来事は、岩手から静岡への移動間に東日本大震災が発生し総動員で被災者の救援活動に従事したこと、また、静岡県では富士の裾野で壮大な総合火力演習等を観覧しました。まさに国防を考えさせる出来事を経験しました。

そんな頑張っている息子に対してプレッシャーにならないよう、「頑張れ」とは言わないようにしています。昨年司令職務室長として、単身で今津駐屯地に配属になり自宅と職場と神戸間を目

陸上自衛隊

滋賀県自衛隊家族会 小林 二郎



まぐるしく行き来している日々のようです。

2022年は、今津駐屯地創立70周年、饗庭野航空分屯基地創立50周年という節目でブルーインパルスが飛び交う記念イベントが催され11万人を魅了し、感無量でした。

この記念イベントに携わることとなるポストへの赴任にこのタイミングは、と大変気苦労が絶えませんでしたが、当日は市の人々の2倍の方々が楽しまれた様ですし、皆様方のおかげで成功裏に終えることができ、安堵感でいっぱいあります。

息子の成長を誇りに思い、次期の赴任先に向けて見守りたいと思います。





息子にバトンを渡した定年退官日

私は令和4年3月、定年退職で41年間の自衛官生活を終えました。

自衛官の定年退職に伴う行事等は、通常は誕生日に行うのですが、年度末の忙しい時期であり最後のわがままと言い張って、現職隊員の定期異動にあわせて駐屯地の臨時昼礼で紹介・見送りを受けました。

行事は、最後まで苦労をかけた妻に見届けてもらつたほか、幹部候補生学校を卒業し、三等陸尉に任官したばかりの三男が制服姿で急遽駆けつけてくれ、父親として・自衛官としてたいへん感慨深いものとなりました。まさに同日は、三男の所属する部隊でも定期異動による紹介行事が行われているはずであり、所属する中隊長や上級曹長の粋な心遣いには感謝するばかりでした。

行事を通じ、幹部自衛官としてスタートしたばかりの三男が何を想ったかは解りませんが、老兵とは違う環境で、違う景色を見ていても、部隊の原点である隊員：人を思い遣る大さは引き継いでもらえたと思います。

(亡父も自衛官でした。父の定年退職の当日、私は初めての夏季休暇中で少年工科学校から帰省していたにも関わらず、福岡市内で遊び呆けておりました。猛反省しております。)



防大との出会いが自衛隊との出会いに

「防大があるじゃないか」と偶然読んだ本に衝撃を受け、受験を思い立ったのは一般採用試験申込締切の直前でした。息子に受験申込をしたと伝え、「え？え～!!」と思ひがけない急な展開に戸惑う息子の背中を押し受験を終えました。合格を頂いてから4月1日までの2か月間は、私達にとって相当なストレスを感じた期間だったと思います。今まで防大を知る機会を逃してきた事を後悔しつつ、様々な防大の情報を集めましたが、不安を募らせるものばかりでした。いま思うと広報官に相談すれば良かったなと思います。私が防大を勧めた理由は、一般の大学に進学するよりも大切な友、時間、経験を得られるのではないかと、確信に近い思いを抱いたことからです。最終的に息子が自分で防大進学を決意した時は、安堵感と喪失感で数か月涙が止まりませんでした。

息子はコロナ元年の入校でしたので、しばらく会えませんでしたが、3か月後に会えた時は、体つき以上に内面の変化に驚きました。防大での成長はすごいなと心強く思いました。

防衛大学校

東京都自衛隊家族会 岩本 佳子



息子は、防大での自分の事をほとんど話してくれません。心配がつのるばかりですが、そういう時に、家族会の皆さんとの交流を通して救われる事がよくあります。そして、家族会を通して自衛官の方々と接する機会が増えると、近寄りがたい印象も払拭され益々自衛隊を応援したくなりました。

息子は防大で生涯の友を、母は家族会で生涯の茶飲み友達を得ることになります。息子の仕事を知る機会になればと入会した家族会ですが、今では私のライフワークになりつつあります。





心から応援！

「俺、海上自衛隊にしたから。さっき、他をみんな断ったんだよ」これは、民間企業含む複数内定をもらっていた就活中の息子が、「どこに決めるのか…」とホクホクしていた家族に向けて言った、最初の言葉です。

実は、家では息子が自衛官になる事は、全く想像もしていませんでした。「危険なのでは？」と心配で、母である私は、入隊の数日前に坊主頭になった息子の姿にも、隊舎行きのバスを見送った時にも、泣いていました。

そんな不安な私とは対照に、着隊の2か月後には、「将来は潜水艦に乗りたい。希望も出している」との連絡があり、生活にもすぐ慣れたようでした。これはもう、家族としても本気で応援しようと思いました。

修業式の後、横須賀から希望していた呉の潜水艦教育訓練隊に異動になりました。同隊の修業式の時は、家族にも出席の機会を

海上自衛隊

東京都自衛隊家族会 田中 実知子



頂き、訓練風景の見学や潜水艦乗艦の貴重な体験もさせて頂きました。最後の行進はとても格好よく、息子が輝いて見えたものでした。

今は入隊してから4年になりますが、息子は無事に三等海曹の潜水艦乗員になりました。タンクを背負って水中作業を行う「開式スクーバ課程」という過酷な訓練にも耐えたようで、「体重が1日4キロ減ったよ」と連絡が来て、ますます頼もしく感じました。息子の教育に関わって頂きました職場の皆様には、心より感謝です。

国防についての無知を、家族も反省して国防関係のニュースをチェック、日本の歴史も勉強しています。これからも、息子を応援しつつ、平和や安全についても考えて行きたいと思っています。



海上自衛官となった長女

長女が海上自衛官を志すきっかけになったのは、現役陸上自衛官の義兄(本人にとって伯父)の存在です。義兄から自衛隊の中の様々な仕事について話を聞いたことで、自衛隊に興味を持つようになりました。その後女性自衛官のトーキイベントに参加する機会があり、女性も活躍できるやりがいのある仕事だと、強く実感できたようです。元来海が大好きで、海に関係する仕事に就きたいと考えていた娘は、海上自衛官を真剣に志すようになり、今春念願叶って海上自衛隊に入隊することが出来ました。

日々厳しい訓練に臨む中、7月末に娘は肩を脱臼してしまいました。直後に行われた水泳テストも受けられず、水泳が得意なだけに、本人も大変悔しそうでした。利き腕の故障でしたので日常生活にも支障をきたしました。しかしその時に、普段は厳しい班長が励ましてくださり、同期の仲間たちも様々にサポートしてくれました。

海上自衛隊

兵庫県家族会 古本 麻理子



れました。それが大きな心の支えになったと、親子共々大変感謝しています。ちょうど夏期休暇で帰省し、故郷の空気に触れたことも良いリフレッシュになったのか、休暇が明ける頃には心身共に元気になって教育隊に戻って行き、その後無事修了式を迎えることができました。そして今は元気に呉の地で頑張っています。

今後も色々なことがあると思いますが、自衛官としての成長を見守っていきたいと思います。



逞しい海上自衛官となった息子へ

2021年11月16日の最終合格発表の日。息子にとって新たなスタートとなる特別な日となりました。幼い頃から船や飛行機のイベント、そして自衛隊のイベントに良く連れて行っておりましたが、いつの間にか興味を持つようになったのがこれから進む道を自ら決めこの日を迎えました。コロナ禍の学生生活という辛い期間を乗り越えて、3月末の入隊準備を進めていくうちに海上自衛隊ではどんな部隊に入りたい。またどんな仕事に就きたいなど自然と考えるようになり、強い意思を持って4月8日の入隊式を迎えるました。GWの帰省時は入隊後1ヶ月程でしたので体つきもまだまだこれからという感じでしたが、先日のお盆休みで帰省した時は体つきも逞しく社会人としてまた自衛隊らしく規律正しい姿へと変貌しておりました。終業式間近ということで配属先も決まったようですが自分が進む道への期待溢れる姿が親として感慨深いものでした。

海上自衛隊

兵庫県家族会 石川 良平



教育隊の期間、自分が買いたい服や物を我慢して訓練に勤しんでおったようで、久し振りに家族で買い物に出かけた時には欲しかった物を大分おねだりされましたが、ご褒美としてプレゼントすると嬉しさも増し次へのステップも頑張る決意も感じ取れました。教育隊修業後、新たな訓練隊にてまだまだ続くようですが、部隊配属になる頃にはどのような姿になっているか楽しみにしています。その為には、健康面や怪我に気をつけてしっかり頑張って欲しいと思います。





息子が選んだ仕事

息子は中学生の頃から、将来は自衛隊に入りたいと言っていました。親としては、体力面でも難しいだろうと気に留めていませんでした。高校生になり、いつの間にか広報官の方と連絡を取り、陸海空自衛隊の見学などに行くようになっていました。

いよいよ進路を決定する時期に、「海上自衛隊に入隊したい」と言ってきました。中学生の頃からの希望でしたので、反対はしませんでした。試験の日まで広報官の方から様々なサポートをして頂いたおかげもあり、見事合格することができました。その後入隊する日まで、体調など気にかけてくれました。他の一般企業ではあり得ないことです。

甘えっ子の息子が、教育隊での厳しい集団生活について行けるのか心配でたまりませんでしたが、時々電話をしてきて「厳しいけれど同期の仲間と励まし合って頑張ってやっているよ！」という言葉に安心しました。

あっという間の5ヶ月間の教育期間が終わり、コロナ禍のため隊員家族は卒業式に参加できませんでした

海上自衛隊

岡山県自衛隊家族会 白藤 ひとみ



が、写真や動画が送られてきて、その様子を見た時は、とても遅しく見えました。初めての航海では、狭い護衛艦での暮らしと生活リズムの違いで辛かったのか、「もう海は見たくない」と弱音を吐くこともありますが、配属先の上官や先輩方が励まし支えてくれたおかげで、辛いことも何とか乗り越えられた様です。

自衛官の任務は、私たちには想像できない大変なお仕事だと思います。どうか体に気をつけて頑張ってほしいと思います。



息子が自衛官を目指して

我が家は農業を営んでいます。農業高校に進学した息子は、農業関係の学校に進学するものとばかり考えていたところ、高校2年の時に突然「自衛官になりたい」と言い始めました。

なぜ自衛官を目指したのかと尋ねたところ「災害派遣の自衛官の皆さんの姿を見て、自分も誰かの役に立てる職業として自衛官以外は考えていない」と言い切った言葉に強い意志を感じました。それからは一般陸曹候補生を目指し、試験勉強や学校での面接試験の練習と頑張っていたようで、無事最終合格をいただき、家族みんなで大喜びしたのと同時に本当にやっていけるだろうかと不安もありました。しかし、入隊激励会時に、岡山地本の本部長さんから「教育隊は教育の窗口です。またそこで出来た仲間同士助け合って、出来ないことも出来るようになっていきます。どうぞ安心して我々に預けてください」と仰っていただき少しほっとしました。

入隊のため岡山駅に送る車中で、不安のためか何度もため息をつく息子。前期教育の松山駐屯地に向かう

陸上自衛隊

岡山県自衛隊家族会 田尻 洋士



バスに乗り、皆さんに見送られながら手を振る息子に親指を立て、「頑張れよ」と送ると、息子も「おお」とばかりに親指を立てる。その時我慢していた熱いものがぐっと来た事を今でも忘れられません。

入隊式での息子は少し変わってきたかなと感じていましたが、前期教育修了式に会った時には体も締まり堂々としており、見違える様でした。現在は第10高射特科大隊にて後期教育中です。国防のため立派な自衛官を目指し日々訓練に励む息子を誇りに思うとともに仲間を大切に。体に気をつけて頑張れと応援して参ります。





息子の進路変遷

中学での三者懇談時、「第一希望は、陸上自衛隊高等工科学校」と先生に答え、妻は全く予期していなかったため、思わず「えっ？」と声を上げ、息子を見たそうです。ちょうど私が平成22年に38年間の自衛官生活を終えて郷里での生活をしている中での事でした。周りの人から「お父さんの様な自衛官になる？」と聞かれても「興味ない」と答えていたので、一人息子でもあり、地元で働いてくれるとばかり思っていました。中学卒業後、希望通り高等工科学校に入校しました。

入校したからには、全面協力。入校後、何度も「厳しくて、ついていけないから辞めたい」と言っていましたが、妻がうまく説得し2教3教と進級し、卒業後はどうする？と質問すると、海上自衛隊航空学生を受験すると返ってきました。本人の希望が第一優先と思い、過去問入手して勉強をするように勧めました。一次合格後、二次の面接で「なぜ海上自衛隊航空学生を目指したのか」と質問された場合「父が搭乗していたP-3Cに乗りたいと答えようか」と聞いてきたので「これから除籍される航空機ではなくP-1の搭乗員

陸自高等工科学校、海自航空学生

岡山県自衛隊家族会 吉田 真吾



と答えるべき」とアドバイス。

無事合格し2022年74期生として入校、「厳しくみんなの迷惑になるので辞めたい」との電話、「パイロットの道を諦めるのなら辞めても良い」と返答すると「もう少し頑張る」との頼もしい返事。

コロナが早く収束する事と、息子がこれから勤務する部隊での記念行事等に参加できる事を楽しみにしつつ、応援していきたいと思います。



私の息子は海上自衛官

私の叔父は、戦後の機雷掃海殉職者です。毎年5月に金比羅山で海上自衛隊が追悼式を開催して下さっています。中学生の息子を連れて行った際、当時の呉地方総監やペルシャ湾から帰国された落合司令官などと親しく懇談させて頂きました。息子はこれを機に海上自衛官を目指すことになった様です。防衛大学校44期生入校式会場に座る息子は間違いない私の息子なのですが、今日からは私だけの息子ではないのだなと思った日でした。

もう一つ忘れられない出来事があります。息子たちが練習艦隊で大阪方面から呉に向かうとの情報、「それでは、瀬戸大橋の下で手を振るわ」と伝え、息子は私たちに連絡するため携帯を掛けているのを艦長にみつかり、「瀬戸大橋にいる両親に連絡している」と告げると、艦長は艦内放送「実習生は上甲板へ岡崎実習生のご両親に総員帽振れ」との指示をして下さった様で、距離はありました甲板から帽子を振って下さる皆さんをしっかり見る事が出来ました。更に艦が遠ざかった際に、こちらに向かって発光信号が(ポーン)と言う

海上自衛隊

岡山県自衛隊家族会 岡崎 義次



感じで一回点灯されたのです。艦長に一人の隊員家族のためにこのような粋な計らいをして頂き、大きな感動を覚え涙が浮かびました。人を大切にする海上自衛隊を選んだ息子の考えに間違いは無かったと確信し、親として応援したいと自衛隊家族会に入会しました。

その後息子は、練習艦「かしま」航海長として遠航に参加、『頑張れ実習幹部、もっと頑張れ「かしま」航海長』の横断幕を持って見送りました。頑張れ海上自衛隊、頑張れ我が息子。

